



2月園だより

2022年2月
尚徳福祉会
沼袋西保育園
園長

暦の上では春を迎えますが、寒さはまだまだ続きそうです。1月は雪も降り、園庭は一面銀世界。乳児さんはお部屋に雪を持ち込んで、小さな手で不思議そうに、大事そうに雪に触れていました。幼児さんは前日から「あしたはゆきがっせんするんだー」と準備万端。汗をかくほど、雪遊びを楽しみました。

連日の報道でもあるように、地域でも新型コロナウイルス陽性者が増えてきており、園内でも警戒レベルを上げております。弱毒化しているのではないかとされるオミクロン株ですが、日本人、特に高齢者や小児でも弱毒化しているかどうかの知見はまだ乏しいようで、今後も注視していきたいと思っております。現状、予断は許されませんので、引き続きこれまでと同様、基本的な感染対策をして参ります。変異株であっても従来と同様に、3密の回避、マスクの着用（乳児以外）手洗いなどの徹底が推奨されています。今後の動向に注意し、備えていきたいと思っております。子どもたちの健康を守り、笑顔で楽しい毎日を送っていききたいと思っております。

今後も引き続き、ご協力をよろしくお願いいたします。

☆2月の予定☆

- 1日（火） 避難訓練
- 2日（水） 幼児身体計測
- 3日（木） 節分の会
- 4日（金） 乳児身体計測
- 10日（木） 0歳児健診
- 15日（火） 3歳保護者会・ドール食育キャラバン
- 16日（水） 4歳保護者会
- 17日（木） 5歳保護者会
- 24日（木） 0歳児健診
- 25日（金） あおぞら安全教室（4・5歳）

※7日・28日の各月曜日、英語であそぼう

☆3月の主な予定☆

- 1日（火） 避難訓練
- 2日（水） 幼児身体計測
- 3日（木） ひなまつりの会
- 4日（金） 乳児身体計測
- 10日（木） 0歳児健診
- 15日（火） 2歳保護者会
- 16日（水） 1歳保護者会
- 17日（木） 0歳保護者会
- 19日（土） 卒園を祝う会
- 24日（木） 0歳児健診
- 25日（金） 幼児お別れ遠足

※7日・14日の各月曜日、英語であそぼう



☆お知らせ・お願い☆

○ご家族でPCR検査を受けられる方がいる場合は園にお知らせくださいますようお願いいたします。

○お子さんに発熱や呼吸器症状等がある場合は登園を控えていただき、解熱後24時間以上が経過するまではご家庭で様子を見てください。また症状によってはかかりつけ医に受診して登園の可否の判断を仰いでくださいますようお願いいたします。なお、同居のご家族に発熱等の体調不良が認められる場合は、お子さんもご家庭で様子を見ていただきますようご協力をお願いいたします。

○園内滞在時間の短縮にご協力をお願いいたします。

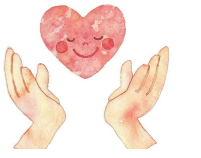
○4日（金）に予定しておりましたが、交通安全教室は、コロナ陽性者の増加により中止となりました。

○15日ドール食育キャラバンはリモートでの開催となります。園内にて幼児クラスが参加します。

○15・16・17日に予定しております各幼児組保護者会は地域のコロナ陽性者の増加に伴い、ZOOM開催といたします。16時30分～行います。事前にお迎え可能な方はご協力をお願いいたします。3月に予定しております各乳児組保護者会もZOOMに変更といたします。ご理解の程、どうぞよろしくお願いいたします。

○25日（金）のあおぞら安全教室は4・5歳が参加します。警察署主催で公園で行われます。

思いやり、やさしさはどのように育つの？



「0～3才個性を伸ばす 能力を育てる」

主婦の友社 東京大学名誉教授 汐見 稔幸 氏

親の絶対的な信頼感が やさしさの原点

思いやりとかやさしさというのは、理屈ではいえない部分と、理性的に判断できる部分が合体したものだと思えます。

理屈でいえない部分というのは、親の絶対的信頼感を子どもに伝えるということです。親子というのは、この世に生まれてたまたまいっしょになったものですが、親は子どもに対して「おまえがどんなことをしても絶対に味方だよ」ということを繰り返し繰り返し感じとらせておく必要があります。

仮に、もしそうではなくて、子どもがよいことをすれば味方になるけれど、悪いことをしたら味方にはならないというのでは、絶対的信頼感とはいえません。

子どもに「親は絶対的におまえの味方」というメッセージが届いていれば、子どもは根源的に人間を信じるようになります。そうして、その喜びを他人にも向けたいくなるものです。そのあらわれがやさしさであり、思いやりです。

子どもが親の絶対的信頼感を感じるには、なにも特別な経験が必要なわけではなく、日々のふれ合いの中で少しずつ積み重ねていくものです。しかし、子どもが何か困難なこと、つらいことに直面したときは、この信頼感が問われるときですから、特にあたたかい対応が必要になってくるでしょう。

もう一つの理性的な部分というのは、たとえば足をけがしている子といっしょに遊んでいたら少し手を貸してあげなければならぬとか、重い荷物を持って歩いているおばあさんを見たら持ってあげたほうがよいとか、理屈で考えて相手を支えてあげたいなど感じる部分です。

これは4～5歳以降に本格的に育ってくる部分（能力）ですが、そういう経験は親が子どもの前で見本を示すことで間接的に伝えられます。重い荷物を持ったおばあさんのその荷物をさりげなく「お持ちしましょう」と言って実際に持ってあげる経験を示すことが、子どもに思いやりを伝えるのです。

「親はありがたいな」 という体験をいっぱいさせる

親の絶対的信頼感ということに戻ります。私自身、親というものはありがたいなと思う体験をたくさんしています。

確か幼稚園のころだったと思うのですが、私は友だちとけんかをして、相手の急所を付けてしまったことがあります。私が家に戻ってから、相手の親から抗議を受けたのですが、そのとき、母親は「いっしょに謝りに行こう」と言って、私を連れて友だちの家に謝りに行ってくれたのです。

こうしたことはその後何度もあったのですが、何回やっても、子どもをしかるのではなく、「いっしょに謝りに行こう」と言ってくれる母親はとてもありがたいな、と子ども心に思いました。

もしこのような状況で、親が自分のメンツにこだわって、子どもを頭ごなしにしかったり、あるいは相手の親とけんかごしに対応したりすると、子どもは動揺してしまうでしょう。ところが、「私はどこまでもあなたの味方なのだから、私もいっしょに謝ってあげよう」というメッセージが届いていれば、

自分は親に絶対的に信頼されていると感じることができません。そして、その幸せを人にも届けたいくなるのです。

これは決してあまやかしではありません。子どものやったことをなんでもしりぬぐいすることは、一線を画したものだということを理解しておくことがたいせつです。

厳しすぎると、 やさしさに欠けた子になる

一方で、「社会に出たとき困らないように身につけさせておかない」と、厳しくしつけをするのも、子どもを育てていくうえでは必要になりますね。

しかし、あまりにも厳しすぎるしつけや、子どもがいやがることを無理じいしたりすると、子どもは「お母さんは私の味方ではないのかもしれない」と考えてしまい、思いやりの心が育たなくなってしまうこともあります。たとえば、子どもがいやがるのにピアノのけいこを一日何時間も強制するとか、食事のマナーをしつけようとしてうるさく手出し口出しするとか、たいていでも正しいやり方に矯正させようとする、などといったケースです。

結局、子どもとの絶対的信頼関係を築くのは、親の生き方そのものにかかわることなのでしょうね。自分自身が誠実に生きることが、思いやりのある、やさしい子を育てることになるのだと思います。

相手の立場に立つという 体験をさせる

相手の立場に立つという気持ちは、2～3才の子には理解できないことですが、そのベースとなる体験を幼いころからさせておくのはたいせつなことです。

相手の立場に立って、相手の心を思いやる力を身につけるには、いろいろな人間とかわかる必要があるのですが、現在の社会環境では同じ年齢の子どもばかりの交流になりがちで、これだとしても競争という意識になってしまいます。

もう少し上の年齢の子、下の年齢の子、お年寄りといったさまざまな年齢の人たちとの交流はとてもたいせつです。また、ハンディを持った人と交われば、支えなくてはならない人がいることがわかります。実際の体験があれば、どんな支えが必要なのかということも理性的に知ることが出来ます。

学校に行くようになると、スポーツのできる子、できない子、勉強のできる子、できない子、けんかの強い子、歌のうまい子、遊びのじょうずな子、リーダーになる子、引っ込み思案の子、などさまざまな子がいることを知るようになります。

こういう人々とお互いに支え合って生き、相手の立場を理解していくうちに、相手の気持ちを思いやる心が育っていくのではないのでしょうか。そんな、いろいろな人たちと交わることでできる場を、幼いころから与えてあげられればよいですね。